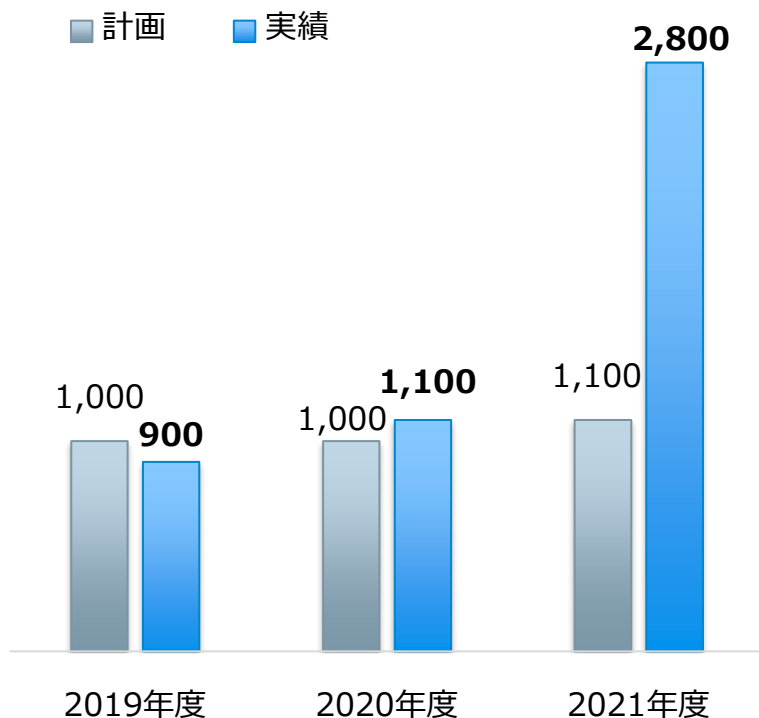


事業計画（2019年4月公表）の振り返りについて

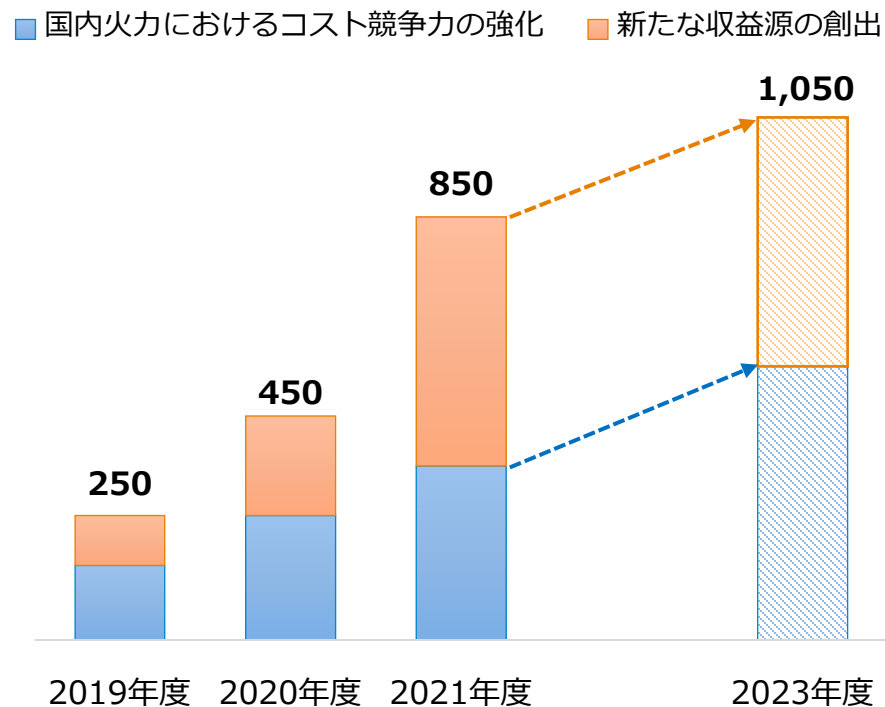
事業計画の振り返り－収支水準の状況－

- 連結純利益額※：2019年度は計画対比未達であったものの、その後計画以上の数値を実現。
- シナジー効果：「統合5年以内の1,000億円以上／年のシナジー効果創出」は着実に進展。2023年度の達成を見込む。

【連結純利益額（億円）】

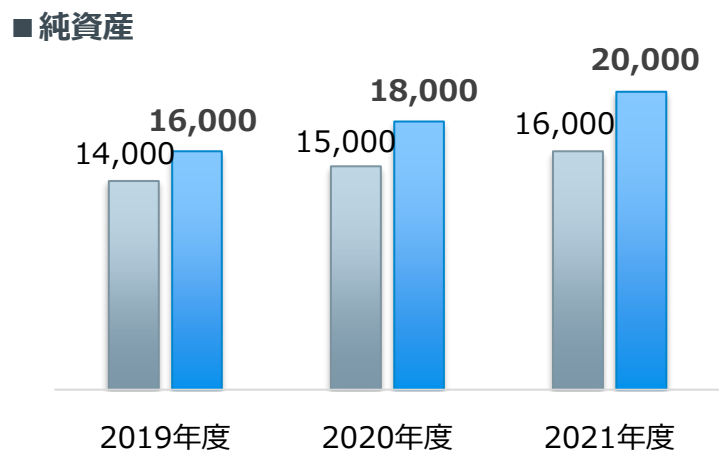
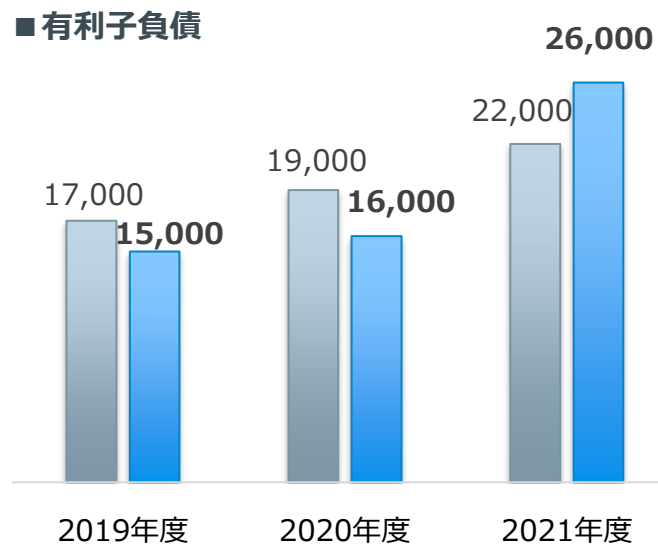
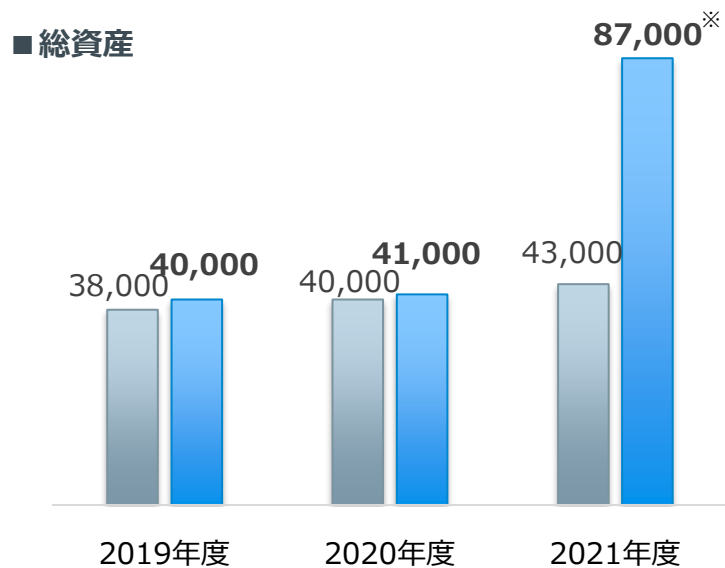


【シナジー効果（億円）】



※燃料費調整の期ずれ影響は除く。

事業計画の振り返り－B/Sの状況－

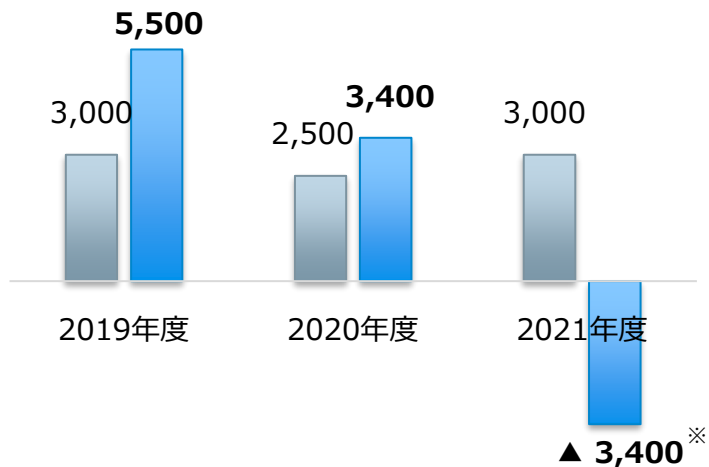


単位：億円
凡例：■ 計画 ■ 実績

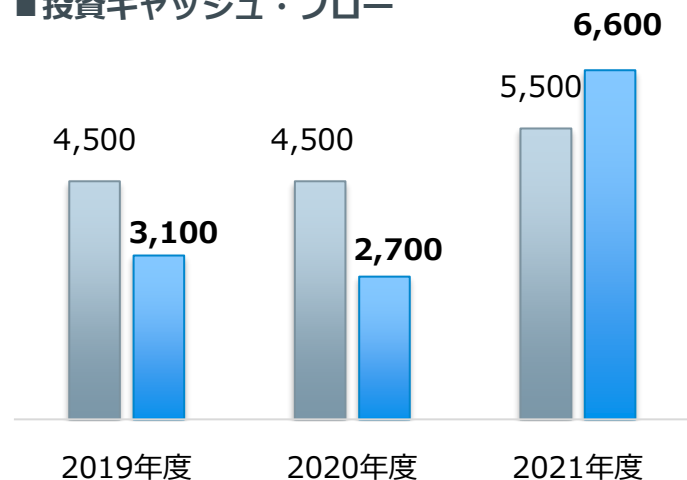
※燃料トレーディングを営む子会社（JERAGM）における、デリバティブ債権・債務による増加（3兆円程度）を含む。

事業計画の振り返り－C/Fの状況－

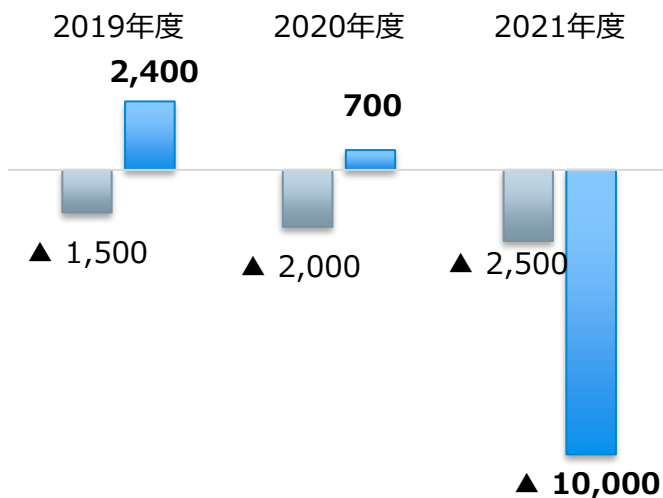
■ 営業キャッシュ・フロー



■ 投資キャッシュ・フロー



■ フリー・キャッシュ・フロー



単位：億円
凡例：■ 計画 ■ 実績

※期ずれ差損およびJERAGMにおける証拠金の増加等の一時的な要因（▲6,500億円程度）を含む。

事業計画の振り返り

－「2025年における目標」の進捗状況－

- 2025年における目標達成に向け、各本部の取り組みは着実に進展。

	計画	2021年度までの進捗
事業開発	<ul style="list-style-type: none">● 国内リプレース開発：7～9GW（5～7地点）● LNG船：25隻程度● 再生可能エネルギーの持分出力目標：5GW	<ul style="list-style-type: none">● 国内リプレース開発：7GW程度（5地点）の開発に向けて順調に推移● LNG船：20隻程度● 再生可能エネルギー持分出力：1.7GW
最適化	<ul style="list-style-type: none">● LNG取扱量：3,500万トン程度● LNG船を活用した最適化● トレーディングによる利益	<ul style="list-style-type: none">● 2021年度取扱実績：3,700万トン程度● LNG船の利用、JERAGMによる石炭・LNGトレーディングによる利益を獲得（JERAGM LNG販売量 1,900万トン程度）
O&M	<ul style="list-style-type: none">● 80GW相当の世界での発電所での運転・保全● O&Mコストを20%削減（統合前東電・中電対比）● 定検期間短縮：▲50%	<ul style="list-style-type: none">● 世界で70GW相当の発電所の運転・保全● コスト20%削減の早期化（2023年）に向けて取組中● Kaizen等により順調に定検期間を短縮